

長蓮寺報

NO.13 (平成20. 12. 23)

こんな時代だから

開創450年記念事業の当山内墓地の整備と納骨堂の建立では、皆様方に多大なご協力・ご援助をいただき誠にありがとうございました。

お陰様で、4月5日に当山開創450年法要を大々的にお稚児さんも参詣され、盛大に執り行うことが出来ました。事業も終盤にさしかかり、今後、墓地前の側溝の整備並びに最終的な墓地整理を残すのみとなりました。

本当にありがとうございました。最終的な収支は後日改めてご報告させていただきたいと思っております。

ところで、昨今 新聞等を見ていますと、アメリカに端を発したサブプライムローン問題やリーマンショック等で株価が乱高下し、十何年ぶりの円高、輸出関連企業の業績悪化による派遣社員の方々の一方的解雇、景気の低迷 等々・・・と暗いニュースばかりが飛び込んできます。無差別の凶悪事件も増え、今まで考えられなかった事ばかりが取りざたされております。

このような混沌とした時代、私達はいかに乗り越えて行ったら良いのでしょうか？

時はさかのぼって鎌倉時代、日蓮聖人の生きておられた時代も同様、地震や疫病で社会不安が蔓延し、まさに末法の時代でした。そんな中で聖人は教えを広めて下さいました。この事からも、今、日蓮聖人の教えが大事なのです。

今は先が見えない暗い世の中ですが、その道を照らしてくれるのは法華経でありお題目です。聖人が生命を懸けて説いて下さった法華経を私達も深く信じてお題目を唱えれば道は必ず明るく照らされます。

心底から仏様の前で「南無妙法蓮華経」「南無妙法蓮華経」と繰り返し唱えれば心も安らぎ、日々の生活を安穩に暮らせるのも必定です！

「うそー？」と言わないで、とりあえずだまされたと思ってやってみて下さい。但し、唱えるという字は、くちへんに昌（「さかん」の意）と書くぐらいですののでしっかりと力強く唱えます。つぶやくようなお題目では、修行になりません。

また、唱題行(お題目を唱え続けること)は、科学的にも健康上、非常によいことが証明されております。（「長呼吸・短吸息」と言って呼吸法からも大変健康に良い）健康のためのお題目ではないですが、結果、健康になれば言うこと無しですね。

皆さん 家族みんなで、お経・お題目を心の底から唱えましょう！

皆様にとって来る平成二十一年が幸多き年になりますように。

合 掌

平成21年 年忌表					
1 周忌	平成20年	1 7 回忌	平成 5年	3 7 回忌	昭和48年
3 回忌	平成19年	2 3 回忌	昭和62年	4 3 回忌	昭和42年
7 回忌	平成15年	2 7 回忌	昭和58年	4 7 回忌	昭和38年
1 3 回忌	平成 9年	2 3 回忌	昭和52年	5 0 回忌	昭和35年

長蓮寺の基礎知識Q & A

Q：仏様には何をお供えすれば良いのですか（3）

前回・前々回で、仏様にお供えする物の5つ（「香」「華」「灯燭」「茶」「供膳」）の「香」「華」「灯燭」をお話ししました。3回目は最後の「茶」「供膳」です。

「茶」とは

「茶」と言うと・・・「千利休（戦国時代）」を思い浮かべる方も多いと思いますが、実は、日本ではもっと昔から親しまれていたようです。

日本に最初に「お茶」をもたらしたのは、仏教を習得するために大陸(中国)に渡った留学僧侶だったと言われています。（飛鳥・奈良時代）

当時、仏教修行の一環として、仏様への献茶がたいそう重要視されておりました。

というのも・・・

お茶には「タンニン」と言う成分がたくさん含まれており、その効能から眠気を覚まし瞑想修行の助けになることから、修行を助ける薬として大変重宝されていたからです。この修行の諸作法が発展し「茶道」になり、一般の人々も良く飲むようになりました。

お茶は、その伝来の経緯や、お茶のもつ様々な効能などから、仏教と深く結びついた飲み物として現代にまで至っております。

それ故に、仏様に茶を供えたり、また、仏事の返礼としてお茶が良く用いられるのも、仏教の中にお茶は欠かせないものになっているからです。

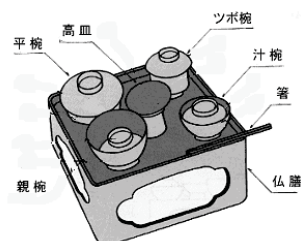
「供膳」（くぜん）とは

ご先祖様や仏様には、生前中にお使いになられていたお茶碗や箸などを使わずに以下の2つの方法でお食事をお供えいただきます。

- ① 仏飯（ぶつばん）・・・毎朝、家族の食事の前に仏様へ炊きたてのご飯をお供えします。
ご飯を入れる器ですが、せとものや真鍮メッキ…ありますが、決まりはありません。
- ② 霊供膳（りょうくぜん） 仏様にお供えするお膳のことです。
富山では「供養膳」（くようぜん）という呼び方をします。
個人の命日や法事の時に、その方の好物を「お膳」に乗せて供えます。



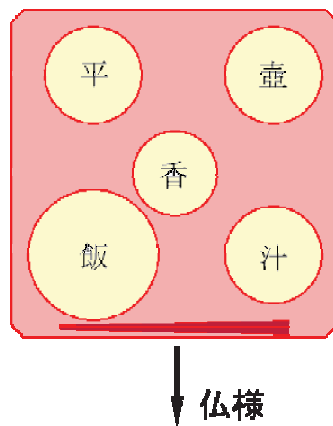
仏飯と霊供膳



本来は、毎朝 御仏壇へ供えるご飯も「仏飯」ではなく、「供養膳」でお供え頂くのが良いのですが、毎日「お膳」を作って頂く事は大変ですので、ご飯だけでもお供えください。

○「供養膳」のお供えの仕方

この「供養膳」はお膳と5つの器で構成されております。この器にはお供えするものが、決められております。



- (1) 飯 (めし) 一番大きな深い器 ご飯を盛る
- (2) 汁 (しる) 汁物を供える 味噌汁、おすまし
- (3) 平 (ひら) 浅い器 煮物、等を供える
- (4) 壺 (つぼ) 深い器 あえ物、酢の物等を供える
- (5) 香 (こう) 足の付いた高い器 漬物を供える

※お供えするときの注意

- ・ 仏様が召し上がるのですから、仏様の方に箸が来るようにしてください。
(仏様が箸を持ちやすい様にしてください。)
- ・ お膳に紋が付いている時は、紋を手前の方向に向けます。

※お供えしたご飯はいつさげる？

仏様にご飯をお供えする意味として

「仏様、ご先祖様ありがとう」の他に「こうしてごはんが食べれるのも、自分の命を支えてくれている食物の恵みのおかげ」という感謝の心でお供えしましょう。この事からも、間違っても下げたご飯を捨てたりしてはいけません。お供えしたものはおいしいうちに「お下がり」として、ご家族で召し上がって下さい。

ご法事の際、お参りが終わった後、参詣した私達は「おとき」と称して、おいしいお食事をいただきますが、本来は、「供養膳」や他のお供物を仏様に先に召し上がって頂き、そのおさがりとしてお食事を私達がいただくのが、本来の趣旨です。

残念ながら、富山ではこの「供養膳」が軽視され、初七日の時など葬儀屋さんにご念入りに申し上げていないとお供え頂けないときがあります。

特に「祥月命日」や「ご法事」時などには 必ず、「供養膳」をお供え下さい。

また、最近では、幅広い食生活になったこともあり、パンやケーキ…等をお供えされる方がおられます。これはよろしいと思いますが、中には「さんまの塩焼き」等をお供えされた方もおられましたが、仏様の食事は、基本的に精進料理です。



◎檀信徒懇談会 京都日蓮展へ（平成21年10月22日～23日）

毎年、北陸教区では檀信徒懇談会が開催しており、3年に一度は、他県に研修旅行に行っております。御檀家さんの中には、何回か参加された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。来年は、京都の国立博物館で開催される「日蓮展」に併せ、一泊二日の研修旅行を計画しております。この旅行の詳細に付きましては、後日改めてご案内する予定です。たくさんの御参加を心よりお待ち申し上げます。



◎ 節分会（豆まき） 平成21年1月31日（土） 午前11時～

明年も節分会（豆まき）をお日待ちに併せて開催致します。大々的に節分を勤修させていただくようになって、今回、4回目になります。徐々に、ご参詣の方も増えてこられ、喜んでおります。来年の節分も是非 みなさま、家族お誘い合わせの上お越し下さいたくさんのご参詣を心待ちにしております。

- ・豆まき役は本来、年男・女、厄年の方が対象ですが、当寺では希望者全員に豆をまいていただく予定です。
- ・豆以外もいろいろ蒔く予定です。（何がまかれるかは当日のお楽しみ！）
- ・抽選会等も計画しております

尚、お札・御祈願を希望される方は、同封致しました別紙の申込用紙にご記入の上お申し込み下さい。

◎七代会（お経の練習会）のお知らせ

- 毎月7日午後2時よりお経の練習会をひらいております。参加費無料になっておりますので気軽にお越し下さい。